

平成30年度

つながりひろがる地域づくり事業
成果報告会



平成31年3月2日（土） 14：00～16：00
安曇野市役所本庁舎 4階 大会議室

安曇野市



平成 30 年度

つながりひろがる地域づくり事業成果報告会

■日 時：平成 31 年 3 月 2 日（土） 14：00～16：00

■場 所：安曇野市役所本庁舎 4 階 大会議室

【プログラム】

- 1 開会（14：00）
- 2 市長あいさつ
- 3 つながりひろがる地域づくり事業成果発表（14：05）

～ステージ発表～

- ① 「地域における食生活の改善事業」
（食の寺子屋 給食部）
- ② 「『太平洋戦時下の下鳥羽の記憶』冊子の出版」
（下鳥羽区公民館）
- ③ 「安曇野ドリンクフェスタ」
（安曇野ドリンクフェスタ実行委員会）
- ④ 「味覚の授業」
（安曇野調理師会）





～パネル展示説明～

- ① 「三田体験農場」
（三田体験農場）
- ② 「安曇野市内のホテルの発生状況調査」
（NPO 法人 川の自然と文化研究所）
- ③ 「高齢者外出支援」
（NPO 法人 からだ堂）
- ④ 「講演会と 10 周年記念誌発行事業」
（三郷郷土研究会）
- ⑤ 「世代間・市民間の交流事業」
（古厩区）

～ 休憩 ～

4 交流会（15：15）

5 閉会（16：00）



つながりひろがる地域づくり事業実施団体一覧



No.	事業名	実施団体名	ページ
1	講演会と10周年記念誌発行事業	三郷郷土研究会	4
2	あづみ野シネマフェスタ	あづみのアクターズアカデミア	6
3	味覚の授業	安曇野調理師会	8
4	安曇野市内のホテルの発生状況調査	NPO法人 川の自然と文化研究所	12
5	「太平洋戦時下の下鳥羽の記憶」冊子の出版	下鳥羽区公民館	14
6	世代間・市民間の交流事業	古厩区	16
7	神竹灯コンサートIN安曇野神竹灯2018 & 竹楽特産品紹介	安曇野で暮らすように泊まる 実行委員会	20
8	節分豆まき	豊科商店連合会	22
9	地域密着人口と共に (地域密着人口とは子供と高齢者の合計)	飯田区お祭りを楽しむ会	24
10	地域における食生活の改善事業	食の寺子屋 給食部	26
11	高齢者外出支援	NPO法人 からだ堂	28
12	三田体験農場	三田体験農場	30
13	安曇野ドリンクフェスタ	安曇野ドリンクフェスタ 実行委員会	32

事業名 講演会と10周年記念誌発行事業

団体名	三郷郷土研究会		
代表者名	千国温	連絡先	77-2904
活動拠点所在地	安曇野市三郷公民館	構成人数	68人
事業実施総額	196,178円	補助金額	98,000円
主な補助金使途	記念誌印刷代、講演会講師謝礼		
事業実施日・期間	平成30年4月～平成30年11月		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>○春季講演会の実施 5月27日(日)演題「人と水のかかわり」 講師 信州大学名誉教授 吉田利男先生 ・参加者 会員38人 一般6人 ・安曇野の水系図をもとに、先人より受け継がれてきた水の関わりを知ることができた。</p> <p>○秋季講演会の実施 11月28日(日)演題「長野県とくに中信地方の地質と地震災害」 講師 信州大学教授 大塚 勉教授 ・参加者 会員26名 一般12名 ・地震のメカニズムや地質によって震度が大きく変わることが学べた。</p> <p>●講演会のポスターを公民館に掲示し、チラシを置くなどPRに努めたり、新聞で広報したりするなどして会員以外の方にも聴講してもらった。今後とも、大勢の市民に参加してもらえよう、呼びかけを行っていきたい。</p> <p>○三郷郷土研究会再発足10周年記念誌の作成 ●会員に配付すると共に、市内5図書館、郷土博物館、文書館、三郷地区の支所・小中学校等に寄贈し、多くの方に見てもらえるようにした。 ●三郷中学校の地域学習では、本会で調査やまとめた物を利用して学習の参考に使っている。 ●他地区の方から、自分たちの地区でも地域を学ぶ参考にしたいとの声もいただいた。一緒に学んでいきたい。</p>		

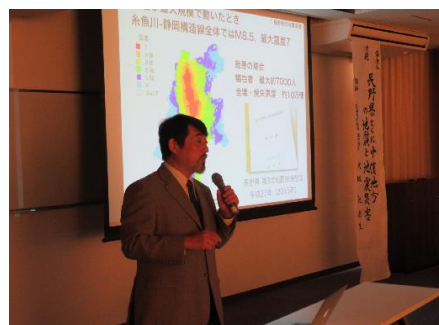
○春季講演会

信州大学名誉教授
吉田利男先生から
「人と水のかかわり」と題して講演
いただく

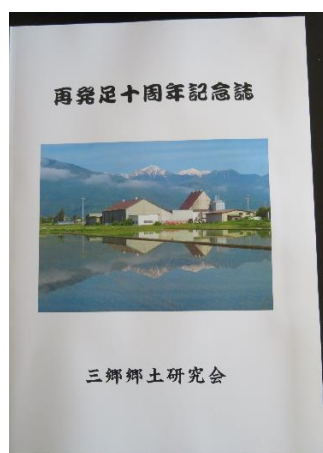


○秋季講演会

信州大学全学共通
機構教授 大塚勉
先生から「長野県と
くに中信地方の地
質と地震災害」と題
し講演いただく



○再発足10周年
記念誌の刊行



事業名 あづみ野シネマフェスタ

団体名	あづみのアクターズアカデミア		
代表者名	河崎 義祐	連絡先	
活動拠点所在地	安曇野市穂高「みらい」	構成人数	5人
事業実施総額	412,195 円	補助金額	185,000 円
主な補助金使途	映画上映料・チラシ印刷・ゲスト出演謝礼等		
事業実施日・期間	平成30年7月29日（日）AM9時からPM6時		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>国内外の名作シネマを鑑賞し、また、作品をより深く味わっていただくよう、シネマ上映後、作品の制作背景等を映画監督や映画コラムニストのトークタイムを設け、あづみ野に「文化」と「感性」がもっと育つことを願い企画した。そして単に映画鑑賞でなく、上映する作品の「国」の文化も楽しく知ってもらおうと、食事や舞踊も披露し、トータルとして「フェスタ」となるようにした。</p> <p>今回は初めての企画で、幅広い世代に感動を共有していただきたく、世界的に大ヒットしたインド映画「きょうまくいく」を上映した。有料入場者は156人、その他ボランティア9人が鑑賞した。台風のあとで集客に不安があったが、多くの人に楽しんでいただくことができた。</p> <p>驚いたことに、映画上映が始まると会場が大きな笑いに包まれ、その声が外まで聞こえるくらいで、そのことだけでも「やってよかった」と皆で思いました。</p> <p>また、インド舞踊も素敵だったとの声が多く、そしてインド人のカレーも評判がよく、用意してきた材料が不足したようでした。</p> <p>ただ、映画自体が3時間程度と長い映画であったので、全体的に時間がかかってしまい、もう少しコンパクトにしたほうがよかったとも思います。</p> <p>今年も東宝で長く活躍した映画監督や、地元で活躍する映画コラムニストの協力を得て、感動する世界の名画をお届けしていきたいと思っています。</p> <p>そして次回は、ボランティアを募集するなど、組織として拡がりをもちたいとも考えています。</p>		

○「第1回 あづみ野
シネマフェスタ」
チラシ

第1回 あづみ野シネマフェスタ

日時：平成30年7月29日(日)
場所：安曇野市交流学習センター「みらい」多目的交流ホール

チケット (全席自由席) お1人1,000円
未定形式の入場はご連絡下さい

第1部 (PM1:00~PM4:00、途中休憩あり)

映画上映 **3 Idiots** 感動のラストシーン!!
【きっと、うまくいく】
AAL IZZ WELL (インド映画)

2009年公開、インドアカデミー賞受賞、インド歴代興行収入1位、第37回日本アカデミー賞外国作品賞受賞

「3回も見るほど好きだ」「心震えた」
ステイプン・スビルパーク ブラッド・ピット

★インドは年間映画製作本数世界一!!
★オモシロさ抜群!!
★あづみ野でインドな一日を!!

インド舞踊

第2部 (PM4:10~PM5:00) 映画トークタイム

河崎義祐さん (映画監督、安曇野市) と合木こすえさん (映画コラムニスト、塩尻市) Ashish Shilpkarさん (DOON食堂 松本市) が、映画撮影のウラ話とインド映画事情など、熱く、楽しく語っていただきます。必見です!!

横田ゆうわさん (インド舞踊家、松本市) による、南インド古典舞踊バラタナティヤム。

“折りの舞い”
バラタナティヤム
大いなるものに折りと感謝を捧げる…

PM12:00から第1部の休憩時まで、シネマフェスタスペシャルとして
日本でも一番小さなインド家庭料理 **「DOON食堂 インド山」** (松本市)の **絶品カレー コーナーOPEN!!**

チケット ■穂高駅前「ひつじ屋」82-3888
取 扱 ■スワンガーデン内「平安堂あづみ野店」72-8877

お問合せ・申し込み：岡村 090-2481-6999

主催：あづみ野のアクターズアカデミア (AAA) 協力：アイシティシネマ・塩尻東座・市長野映研

○信濃毎日新聞紙面
(30年7月30日)

あづみ野シネマフェスタ初開催

第1回「あづみ野シネマフェスタ」が29日、安曇野市穂高交流学習センター「みらい」で開かれた。インド映画を上映し、塩尻市の映画コラムニスト合木こすえさん(59)が同国の映画産業について説明。地元の映画監督らと対談もした。休憩時間には本場のカレーを味わい、160人が映画祭を楽しんだ。

安曇野市の俳優・語り部養成塾「あづみのアクターズアカデミア」が、幅広い世代が感動を共にできる機会をつくらうと企画。インド映画「きっと、うまくいく」(2009年)を上映した。階級制度が残る社会で将来を模索する大学生3人の青春群像劇。歌や踊りを交えたコミカルな演出に、終始笑い声が続いた。

対談では、安曇野市の映画監督、河崎義祐さん(82)が上映作品について「笑わせながらも社会問題を描いている」と解説。松本市でインド料理店を営むシルパカー・アジシユさん39は大勢の来客などに「インドの作品を大切にしてくれる人がたくさんいると知り、うれしい」と話した。

（60,730）

事業名 味覚の授業

団体名	安曇野調理師会		
代表者名	田島 修二	連絡先	72-5942
活動拠点所在地	安曇野市内小学校	構成人数	40人
事業実施総額	152,140円	補助金額	62,000円
主な補助金使途	消耗品購入		
事業実施日・期間	平成30年10月18日(木)・22日(月)		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>【事業概要】</p> <p>食文化を子供たちに伝える為、1990年10月第三週にフランス全土で始まった味覚教育活動で、五感を使って味わうことの大切さや楽しさを体験できるイベントが開催されています。日本でも2011年10月第三週に活動が始まり、安曇野調理師会も西洋料理の会員が中心となり、2012年から「味覚の授業」にボランティアとして参加し、味覚の発達段階にある小学5年生を対象に安曇野市内の小学校で毎年授業を行っています。平成30年度は2校実施しました。</p> <p>【成果】</p> <p>味には、味の基本となる「しょっぱい」「すっぱい」「あまい」「にがい」、日本の食文化に根づく「うまみ」があることを試食しながら学び、五感を使って味わう楽しさも体験してもらうことができました。安曇野で採れる野菜を使った調理実習では、食材に味を加えながら調理する楽しさを体験し、試食の時間には、五感を研ぎ澄ませ、口で感じる味の他、目・鼻・耳でも感じてもらい、食べることの楽しさや、5つの味が合わさった美味しさを味わうことができました。</p> <p>【今後の展開】</p> <p>味覚の未発達な子供たちが、味覚を意識し、五感を働かせて味わうことの大切さや楽しさを体験する授業を小学校で今後も実施し、保護者の方も味覚への関心を向けてもらえる機会を作っていきたいと思います。</p>		
消耗品購入 各クラスでの授業がスムーズに行えました	  		

○豊科南小学校
 10月18日(木)
 3クラス100名
 講師18名
 ○堀金小学校
 10月22日(月)
 3クラス99名
 講師16名



【一時限目】

味覚食材の準備

3クラス6グループ
 塩・砂糖・酢・チ
 ヨコレート・だし
 (鰹節・昆布・椎茸)



調理実習食材準備

ラタトゥイユ
 (豊科南小学校)
 味噌汁
 (堀金小学校)



【2時限目】

各クラスでメイン講
 師を中心に授業を始め
 る。

講師自己紹介

味覚の授業開始

- ・味ってなんでしょう
- ・味はどこにあるもの
 でしょう
- ・味はどんな種類があ
 りますか
- ・どんな食べ物があり
 ますか？

味の基本 「しょっぱい」「すっぱい」「あまい」「にがい」「うまみ」
 五感覚で味わう

- ①目で見て
- ②鼻で匂いをくんくん
- ③口に入れて噛む
- ④噛むときの音は
- ⑤舌で味がわかるかな



5つの味覚

4つの味覚を試食

しょっぱい 塩

すっぱい 酢

苦い チョコレート

甘い 砂糖

5つ目の味覚

うまみの素になる

鰹節・昆布・椎茸

の香り味を確認

鰹節削りたては味が濃く、口の中で解けてしまう。

昆布の原型と香り

教室が昆布の香り

でいっぱい。

五感で味わう

鼻をつまんだり、

目をつむって食べ

てみよう。味がわ

かるかな。

3時限目

昆布と鰹節でとった

一番だしを味わう

出し汁を味わって

から、塩を一つま

み入れ、味の変化

を楽しむ

調理実習

ラタトゥイユを作ろう

(豊科南小学校)

フランスプロバ

ンス地方の野菜煮込

み料理。安曇野は

トマト・玉ねぎを

多く収穫していま

す。



講師も初めて鰹節を削る。

教室を横断する長い昆布。



給食の時間

ラタトゥイユを試食

普段は食べない野菜もいろいろな味が加わって“おいしい”という言葉が聞こえました。



味噌汁を作ろう

(堀金小学校)

身近な野菜を一番出して煮て、みそを入れ、味を調整しました。



4時限目

長野県・安曇野市の

地産地消の話

澄んだ空気・清らかな水、豊かな自然が育んだ、お米、野菜・果物・魚など、食材が豊富です。身近な食材を美味しく食べましょう。食事は体の形成にとっても重要です。牛乳は人が飲む為に作られています。



旬ちゃん・みずんを
囲んで記念撮影



講師のみなさん

旬ちゃん・みずんを紹介

事業名 安曇野市内のホタルの発生状況調査

団体名	NPO 法人 川の自然と文化研究所		
代表者名	吉田 利男	連絡先	72-3768
活動拠点所在地	安曇野市内全域	構成人数	25人
事業実施総額	175,000円	補助金額	87,000円
主な補助金使途	講師謝礼、パネル作成費、印刷費、通信費		
事業実施日・期間	平成30年6月1日～平成31年3月31日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>【事業概要】</p> <p>安曇野市内のどこで、いつ、どれだけの数のホタルが見られているのかを知ること、また市内で行われている保全活動について集約、整理することを目的として、情報収集、観察会、意見交換会、講演会などを行った。</p> <p>意見交換会や講演会では、保全活動を行っている個人・団体に集まっていたいただき、情報を共有するとともに、今後の活動等について意見交換した。</p> <p>また、安曇野環境フェアにも出展し、市内でホタルの生息情報等について情報収集を行った。</p> <p>意見交換会、講演会の内容については、冊子にとりまとめる。</p> <p>【成果】</p> <p>■意見交換会（7/14）・講演会（11/17）の開催</p> <p>意見交換会では、市内にてホタルの保全に取り組んでいる7つの団体に参加いただき、ホタルの生息状況や保全取組について情報交換を行いました。</p> <p>講演会では、「安曇野におけるホタルの生息状況と保全のための取組について」とのテーマで、当会よりこれまでに情報が集まった市内のホタル生息状況や保全団体の活動紹介を行ったのち、市内でホタルの保全に取り組む3団体より活動状況について報告いただいた。最後に、長年ホタルの保全に取り組んでいる信州大学名誉教授の藤山静雄先生より「ホタル“も”すめる良い自然から 一ホタルの保全を考える」としてご講演いただきました。</p> <p>当日は、40名程の市民が集まり、良い情報交換の場となりました。</p> <p>■安曇野市内でのホタル観察会の実施（明科せせらぎ、豊科鳥羽地区）</p> <p>安曇野市内の河川で、ホタルや水生生物を中心とした観察会を2回開催しました。川に親しみながら、川の働きと生き物について勉強してもらいました。明科せせらぎで開催した観察会は信州大学と協働して行い、多くの親子の参加がありました。</p> <p>豊科鳥羽で開催した観察会では、市の史跡にも指定されている鳥羽館の堀や付近の田んぼに生息するヘイケボタルを観察しました。</p>		

■安曇野環境フェア 2018への出展

市内のホタル分布を整理した図面などを展示し、ホタルの生息状況についての情報提供を呼び掛けました。また、身近な川に生息する魚や水生昆虫などを水槽で展示し、子どもたちに実際に見て触れてもらいました。

【今後の展開】

今年は、市内にてホタルの保全活動に関わる団体や市民から情報を集めることができました。また、同じ活動に取り組んでいる団体が情報交換を行う場を提供できました。

今後は、今年得られた情報やネットワークを元に、現地調査なども行って、市内のホタルの生息状況の詳細を把握していくとともに、各団体の保全の取り組みの支援を行っていきたいと考えています。

水辺観察会
7月8日(左)
明科せせらぎ



7月21日(右)
豊科鳥羽



安曇野環境フェア
(10月7-8日)での
展示(堀金体育館)



第13回「川の自然と
文化」講演会
11月17日
豊科交流学習センター「きぼう」
40名の参加



事業名 「太平洋戦時下の下鳥羽の記憶」冊子の出版

団体名	下鳥羽区公民館（下鳥羽の古文書を読む会）		
代表者名	西沢 洋明	連絡先	73-2598
活動拠点所在地	下鳥羽公民館	構成人数	15人
事業実施総額	333,387円	補助金額	166,000円
主な補助金使途	発刊冊子料		
事業実施日・期間	平成30年4月23日～平成30年10月2日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>【事業概要】 下鳥羽公民館活動の古文書解読勉強会の傍ら、太平洋戦時下を知っている生き証人のみなさまからの貴重な体験記憶と、地区の戦没者の記録等を残すことを行った。併せて、対馬丸の船長が区内出身者であった事実を知るところとなり、沖縄から本土への学童疎開船対馬丸と船長について歴史事実を掘り起こし、「太平洋戦時下の下鳥羽の記憶～対馬丸と西沢船長～」の発刊を行った。</p> <p>【成果】 下鳥羽区民の希望者への斡旋配付をおこない、新聞紙面を通じて安曇野市内はもとより、県内多くの方に対馬丸事件を知っていただき、希望者には冊子の提供ができた。また、安曇野市内図書館及び豊科地区の小中学校には寄贈させていただき、戦時下における対馬丸事件の学童の悲劇を通じて戦争について考えてもらうことに寄与したと思う。</p> <p>【今後の展開】 豊科郷土博物館の企画「安曇野にも戦争があった2018」への企画要請を受け、企画展示会に対馬丸記念館から入手した関連資料の展示および対馬丸事件についての講演もおこなった。戦後70数年を経て、忘れ去られていく太平洋戦争の記録を残す活動の一助になったと考える。 今後も各種講演会（公民館会議等の）には積極的に参加し、今回の冊子発刊に伴い繋がった沖縄の対馬丸記念館他関係者等との交流を進め、慰霊訪問等を行い、更に多くの方々に改めて太平洋戦争と対馬丸にかかわる沖縄の悲劇を伝える活動をして行きたい。</p>		

○豊科郷土博物館企画「安曇野にも戦争があった 2018」への参画講演と展示を行なう。

11/18 講演状況



展示状況



○冊子「太平洋戦時下の下鳥羽の記憶～対馬丸と西沢船長」の内容と新聞紙面内容

冊子内容



信濃毎日新聞 8/22 紙面



事業名 世代間・市民間の交流事業

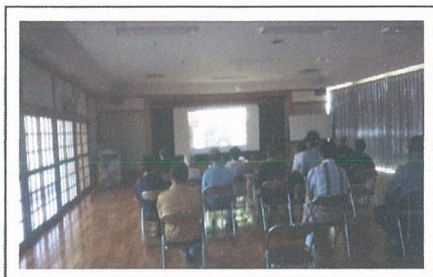
団体名	古厩区		
代表者名	吉田 洋史	連絡先	090-1033-0198
活動拠点所在地	古厩区域内	構成人数	345 世帯
事業実施総額	465,477 円	補助金額	200,000 円
主な補助金使途	食材、消耗品、たこ焼き器一式		
事業実施日・期間	平成 30 年 6 月 10 日から平成 31 年 1 月 27 日まで		
事業概要	<p><はじめに> 古厩区は、穂高川の西岸から有明山の麓まで約 6.4km と東西に細長い地域で、古厩地区と宮城地区の二つの地区からなり、古厩に 10 常会、宮城に 5 常会、また、公民館も古厩会館と宮城会館と二つあります。さらに、社協・ボランティア会・防災会・親睦会（宮城は老人クラブ）・こども育成会・安協等の団体が両地区にあり、それぞれに活動を行なっていて、ナイターソフトのグループを除けば、両地区にそれほどの交流がなく、その関係に微妙なものを感じられるのが現状です。</p> <p><目的> このような関係を踏まえ、①古厩地区と宮城地区の二つの地区が連携共同して行事を行なうことにより、地域間の交流をより深いものにする。②また『八面大王』と誰もが耳にしている名ですが、その魏石鬼の窟がどこにあって、またどのようなものなのか、或いは正福寺の不動明王・窟上観音堂について知る人、特に古厩地区の住民には少ないのではないかという思いから、ふるさとの歴史・伝説・文化への関心を深め、以ってふるさとへの愛着心を高めて、その誇りへと繋げられることへの期待が目的です。</p> <p><事業内容> つながりひろがる地域づくり事業として、平成 29 年度の宮城地区からの『宮城地区ウォーキング』への古厩地区招待、古厩地区からの『大宮神社宵祭り』への宮城地区招待が実施され、かなりの好評を得ました。 平成 30 年度は、従来の高齢者交流事業・映画サロン（対象：高齢者と子供）・野外学習—ニジマス掘み取り・納涼祭・大宮神社宵祭り・きのこ狩り—室内学習と野外学習・自主防災での炊き出し訓練等、子供から高齢者まで参加できる様々な行事と地区の歴史・伝説・文化の継承を目的とする行事を実施しました。 これらの中で、特に古厩・宮城両地区の世代間を含めての交流と、歴史と伝説の学習を目的とした、『ふるさとの歴史と伝説学習会』と『きのこ狩り』—ふるさとの歴史と伝説野外学習会—の実施について紹介します。 9月24日 ボランティア会合同会議開催（露店運営等の打合せ） 9月30日 ふるさとの歴史と伝説学習会（講師：百瀬宗治先生） 61 名参加。正福寺の伝説と歴史、不動明王の解説、有明山と聖地としての宮城、魏石鬼の窟と古神道の関係等。 10月7日 『きのこ狩り』—ふるさとの歴史と伝説野外学習会 74 名参加。同寺裏山でのきのこ狩り、有識者による不動明王と窟上観音堂、岩屋の実地学習、正福寺境内でのきのこ鍋・焼肉・綿アメ等露店運営。</p>		

- 平成 30 年 6 月 10 日 第 1 回高齢者交流事業（高齢者料理教室と配食）

一人住まいの高齢者 20 名のお宅を訪問して、弁当を手渡して、近況を尋ねながらしばし歓談する。

- 平成 30 年 6 月 24 日 第 1 回映画サロン（高齢者）

『高速参勤交代リターンズ』鑑賞後、昼食を共に食しながら、参加者や昼食を用意してくれたボランティアのメンバーも交えて交流を図る。参加者 24 名。



- 平成 30 年 7 月 29 日 『ニジマス掴み取り』—野外学習—公德心を培おう

古厩親水公園内の池にニジマスを放流し、子供達が四苦八苦して捕まえた魚を、調理して串に刺し、串焼き、たこ焼き、焼きソバ、かき氷、綿アメの露店を運営、また隣接地でポニーの乗馬体験。子供 48 名（うち乗馬体験者は 26 名）を含めた住民 100 余名が参加。この夏一番の思い出作り。



- 平成 30 年 8 月 14 日 納涼祭

会館前庭に於いて、区と公民館及び育成会が共同で、焼きとうもろこし・焼きそば・たこ焼き・かき氷・綿アメの露店設営。またゲームなどで子供も交えた住民約 150 名が、真夏の夕方から宵の一時を過ごす。



- 平成 30 年 9 月 8 日 大宮神社宵祭り

お船曳航引き回し後、神社境内にて焼きとうもろこし・恒例のジビエの串焼き（いのしし）・たこ焼き・綿アメの露店。推定 200 人の住民が初秋の一時を過ごす。



- 平成 30 年 11 月 11 日 自主防災訓練（炊き出し訓練）

穂高消防署と消防第 11 分団の協力を得て、訓練実施。初期消火訓練・放水訓練・応急処置等の学習・防災講話及び炊飯袋を使用しての炊き出し訓練。



- 平成 30 年 11 月 18 日 第 2 回映画サロン（子供）

『ドラえもんーのび太の恐竜 2006』鑑賞。ボランティアによるたこ焼き、綿アメ。子供 15 名を含め 25 名参加。子供に人気のたこ焼きを作るのに裏方は大忙し。



- 平成 31 年 1 月 27 日 第 2 回 高齢者交流会（高齢者料理教室と配食）

高齢者に適する食材を調理、パックを開いた時の色合いにも工夫、ちょっと贅沢なフルーツも添えて。一人住まいの高齢者 17 名のお宅を訪問して、弁当を手渡ししながら、近況を伺いつつしばし歓談。



事業名 神竹灯コンサート IN 安曇野神竹灯 2018&竹楽特産品紹介

団体名	安曇野で暮らすように泊まる実行委員会		
代表者名	辻谷 洋一	連絡先	82-5820
活動拠点所在地	安曇野市穂高5047	構成人数	19人
事業実施総額	504,970円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	特産品紹介・神竹灯コンサート		
事業実施日・期間	特産品紹介11月16・17・18日/ 神竹灯コンサート11月30日～12月1・2日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>特産品紹介のためのブースを大分県竹田市のイベント「竹楽」期間中に地産地消村内に開設し来場者に試食・配布し、安曇野産リンゴの美味しさをPRした。</p> <p>「竹楽」開催中に各地から訪れる約18万人とも言われる観光客に対してリンゴという特産品を通じて「長野県安曇野市」の観光促進に寄与でき、実際安曇野神竹灯や安曇野で開催されているイベントに参加したことがあり、是非また訪れたい旨の話が何組かあった。</p> <p>今後の展開としてはこれをきっかけとして安曇野を訪問する観光客の増加が少なからず期待でき、地域の活性化につながるものと思われる。</p> <p>また、特産品のリンゴについても販路拡大には至っていないが、「安曇野産リンゴ」の評価は年々上昇しており、個人ベースではあるが発送依頼の相談も受けるようになってきている。</p> <p>安曇野神竹灯期間中に開催するコンサートは、表現者も増え神秘と幻想的な雰囲気穂高神社の境内の中で竹灯籠のキャンドルのゆらめきと共に流れる歌声は訪れた方々の癒しの時間となったようである。</p> <p>各地からのツアーバスも増加し、過去最高の入場者数（主催者発表18000人）を数えた。</p> <p>今回竹灯籠の数が公称10000本であったが、実数は14000本を数えたこともあり、その圧倒的な迫力に訪問客からは讃辞の声が数多く聞かれた。</p> <p>8回目を迎えたこのイベントが認知され、安曇野の冬のイベントとして定着したものと思われる。</p>		

特産品紹介

平成30年11月16
～18日大分県竹田市
「たけた竹楽」にて安
曇野リンゴのPRを行
った。

竹の積み込み「安曇野
へ」



神竹灯コンサート

安曇野神竹灯期間中2
組の演者連日2回の演
奏をしていただきました。



事業名 節分豆まき

団体名	豊科商店連合会（事務局 安曇野市商工会内）		
代表者名	高原 茂	連絡先	72-2986
活動拠点所在地	事務局 安曇野市豊科 4289-1	構成人数	38人
事業実施総額	266,350円	補助金額	133,000円
主な補助金使途	節分イベント実施		
事業実施日・期間	平成30年12月10日から平成31年2月15日まで		
事業概要・成果 ・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・事前会議 3回 (H30年12月10日・H31年1月18日・29日) ・節分豆まき H31年2月3日 13時集合 14時よりお汁粉のふるまい 14時30分より神事斎行 14時45分頃より豆まき開始 15時頃 豆まき終了 16時 後片付け終了 解散 ・当日は準備の時間までは天気が良かったが、午後になり次第に風が強くなる中、スタッフ含め約130名の参加者があった。 ・商工会豊科支部女性部の皆さんによるお汁粉のふるまいも好評で予定を上回る約300杯がふるまわれた。 ・参加者は日曜日という事もあり、親子連れの参加者が目立った。 (約7割) 特に小学生低学年以下(未就学児含む)の来場が多かった。 また、全体としては幅広い年代の方にお越し頂いたように思える。 ・お汁粉のふるまい会場では、様々な年代の交流も見られた。 ・今回、商店街の歴史を振り返る写真を展示することにより、写真をきっかけに店主や地域の方との会話が生まれた。 また、世代を超えて交流する様子が見ることができた。 ・普段、あまり商店街を利用していない方も多く来場いただいた。 ・豆まきの前に神事を執り行うことにより、日本の伝統文化に触れる機会を取り入れたことは良かったと思う。 ・豆を投げる『福男・福女』の方は、商店街関係者の12歳から48歳までの方にお問い合わせいただき参加いただいた。 ・各商店・豊科スタンプ会から頂いた協賛品も好評で、商店の周知には一定の効果があったと思われる。 ・事故・ケガもなく無事終わることができ、よかった。 ・来年度以降は、協賛店舗を拡大しスタッフ・景品のより一層の充実、周知にも力を入れ幅広い年代層の来場を促す。 また、来場者を商店街へ還流させる方法も検討していきたい。 今回は日曜日だったため開始時間を14時に設定できたが、来年は月曜日になるため開始時間・日程ともに検討していきたい。 		

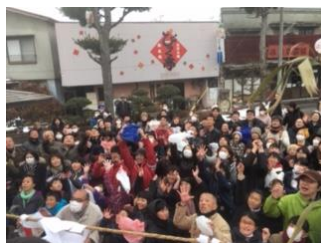
準備の様子



まちづくり会館内
お汁粉のふるまい



豆まきの様子



商店街の写真展示の
様子



事業名 「地域密着人口と共に」(地域密着人口とは子供と高齢者の合計)

団体名	飯田区お祭りを楽しむ会		
代表者名	小松原 実	連絡先	
活動拠点所在地	飯田公民館	構成人数	58人
事業実施総額	472,023円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	・謝礼 ・賞品 ・食材/材料 ・備品購入		
事業実施日・期間	平成30年11月11日		
事業概要	<p>子供の時期と高齢の時期は、地域との関わりが極めて強い特徴があり、生産人口に比べて、自分が暮らす地域への密着の度合いが高くローカル化が進み、住んでいる地域の重要性が増していく。飯田区の地域密着人口は、40.1%と高い。但し、一般的には高齢者が増える事で地域密着人口が高くなるが、飯田区の場合は若い世帯が多い団地があり、この世帯の子供が多く、高齢者の人数とほぼ同じくらいである。このような状況から、今この世代との相互間理解と融合が必要であると考え、区民の全てが楽しめる「区民お楽しみ会」を実施した。</p> <p>今年度は、子供が参加しやすい催物を行えば、親と祖父母も一緒に参加し全体の参加者も増加すると考え、お祭りを楽しむ会のメンバー、特に企画部、子ども会、公民館の方達に協力を頂き、子供コーナーの催物に力を入れると共に事前のPRも積極的に実施した。</p> <p>【実施内容】</p> <p>★日時 平成30年11月11日(日) 10時~14時</p> <p>★場所 飯田公民館周辺</p> <p>①子供コーナー ・輪投げ・くじ/賞品あり・木工クラフト・金魚つり ・たこ焼き・綿あめ・ポップコーン</p> <p>②屋台コーナー ・天ぷらそば・焼肉・フランクフルト</p> <p>③食事コーナー ・おにぎり・漬物・まめぞんの豆腐</p> <p>④飲物コーナー ・ビール・日本酒・ソフトドリンク</p> <p>⑤展示、音楽体操発表 ・飯田学校の手作り品の展示・音楽体操の発表</p> <p>⑥音楽演奏会 ・サクソ演奏 Gr「サキソニオン」によるジャズ演奏</p> <p>⑦大抽選会 ・抽選会 賞品多数 空くじなし</p> <p>【備品整備】</p> <p>備品は、折りたたみイス15脚 及び イス専用台車2台を整備した。</p>		
成果	事前のPR及び子供向けの催物に力を入れた事と天候にも恵まれ、約250人(昨年25%UP)の多くの子供、区民の参加があり、世代間の交流を図る事が出来、当初の目的を達成した。		
今後の展開	「区民お楽しみ会」は、公民館事業とは別にお祭りを楽しむ会(地域づくり協議会のメンバー主体)により、区主体の事業として定着している。団地の子供たちと一緒に親も参加し区の行事に関心を持ち、さらに、積極的に区の運営に参画してきている。今後も、この事業を継続し、地域の活性化に結び付けていきたい。		

実施状況

PR用
《ポスター・チラシ》

区民お楽しみ会



《子供コーナー》

- ・子供くじ
- ・輪投げ

- ・木エクラフト

《サクソニオン演奏》

《展示コーナー》

《音楽体操》

《屋台コーナー》

《たこ焼きコーナー》

《大抽選会》

《備品購入》

- イス 15脚
- 台車 2台



事業名 地域における食生活の改善事業

団体名	食の寺子屋 給食部		
代表者名	崎元 伸郎	連絡先	83-6245
活動拠点所在地	穂高5952-1-5	構成人数	23人
事業実施総額	365,586円	補助金額	180,000円
主な補助金使途	施設借上料、謝礼、印刷製本費、役務費、材料費		
事業実施日・期間	下記の通り		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p><6/24></p> <p>●味噌造り用大豆種蒔き</p> <p>昨年に引き続き行う春先の味噌造りワークショップへ向けて本年度は大豆を植えるところから始めました。</p> <p>近隣の小学校や保育園に通う子供達と一緒に1畝程の畑をおこし「草や虫を敵としない」自然農法スタイルで蒔きました。</p> <p>自然農法の考え方は生物多様性の考え方との親和性が高く作物を育てるという視点だけでなく、沢山の命の繋がりの中で「生かされている」という原体験が出来たのではないかと思います。</p> <p>親子がこうして作物を種から育て食べる所まで一貫して観察していくことは、トレーサビリティの不透明な現代に於いてとても気付きが多く、毎年度続けて種も取って引き継いでいきたいと思いました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【畑の様子】</p> <p><12/16></p> <p>●「カレーライスを一から作る」上映会</p> <p>探検家の関野吉晴さんが武蔵野美術大学のゼミの中で行なっている、文字通りカレーライスを一から作る過程を収めたドキュメンタリー映画の上映会を、みらいで行いました。</p> <p>安曇野市にお住まいの方を中心に計180名の方にご覧になって頂け、アンケートの回収も8割を超え大変ご好評を頂きました。</p>		

事業概要・成果
・今後の展開

文字通りカレーライスに肉や野菜、塩や、お皿まで一から作るという内容、育てた鳥を屠るシーンでは、やはりショックを受けた方も多かったようですが、だからこそ「命を頂いている」という食の原点を感じられた良い映画だと沢山の感想を頂きました。



作中に出てくる学生達も、最初は鰯もまともに振り下ろせず菓子パンばかり食べるような軟弱な子達が、最後には締めたお肉を噛み締めて味わう様子などは自己成長の縮図で、それを多くの方と追体験出来た事はとても有意義だったと思います。

映画上映は裾野が広がりやすいので、今後も教育関係者や学生達とも一緒に企画していきたいと考えています。

<3/30>

●「歌って踊れる味噌造りワークショップ」

昨年大変ご好評を頂いたワークショップを、本年度は栽培した大豆を一部使用し、より人数も増やして行う予定です。



【写真は昨年のものを引用】

昨年度仕込んだ味噌もとても美味しく出来ていて、子供も大人も楽しんで仕込んだ事が発酵にも良い影響を与えているのではないかと思います。



こうした手前味噌造りは健康造りの基礎になり得ることから、寒さも吹き飛ばす慣例行事として定着させていけたらと考えています。

事業名 高齢者外出支援

団体名	NPO 法人 からだ堂		
代表者名	吉原 宣親	連絡先	72-5535
活動拠点所在地	安曇野市豊科5946-1	構成人数	10人
事業実施総額	730,459円	補助金額	135,000円
主な補助金使途	乗車賃・中型バス代金		
事業実施日・期間	平成30年6月15日・10月28日、29日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>今年度は、大系線にリゾートビューふるさが運行していることを知り計画した所、皆さんに賛同いただき募集を開始。市民タイムスに2回の告知を予定。1回目の告知で定員に達し、反響の多さに驚きました。6月でもあり天候が心配でしたが曇り空の中、皆さんで協力しながら白馬の景色を楽しむことが出来ました。</p> <p>焼津1泊旅行は、2日とも素晴らしい天候に恵まれ大井川鉄道SLに乗車。皆さんSLは数十年ぶり、とても懐かしく40分ほどの旅は終了。翌日も近年にない晴天、ホテルからの富士山の美しさ、フェリーからの眺め最高でした。三保の松原では、最高齢の方を車いすで移動、車いすが大活躍。</p> <p>今後の展開として、毎回新しい方の参加があり、少しずつ外出支援の輪の広がりを感じつつも、参加される方の年齢も毎年上がり、移動手段、ヘルパーの不足が心配されると同時に参加費の増加をどう抑えるかが今後の課題。</p>		
八方尾根兎平			
眺望台にて			

ホテルよりの展望良好



駿河湾遊覧



SLにて



お茶の入れ方講習



事業名 三田体験農場

団体名	三田体験農場		
代表者名	三村照子	連絡先	
活動拠点所在地	安曇野市堀金三田 (JA 三田支所北圃場)	構成人数	15人
事業実施総額	403,300 円予定	補助金額	200,000 円
主な補助金使途	農業・農産物加工体験の実施費用 材料、使用料、指導料、育苗経費		
事業実施日・期間	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 2 月		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>・永年堀金三田地区で栽培されている加工トマトを使い、トマトケチャップ作りを行いました。今回は、体験農場ハウスで栽培したトマトを加えることができました。8月8日・9日堀金加工センターを利用して、一般参加者 15 人、児童 3 人と会員が参加しました。一般のなかには大学生の参加もあり、できたてのケチャップを味見しながら、世代を超えて和気あいあいと楽しく過ごすことができました。来年度も続けて欲しいとの要望も多くありますので、検討していきます。</p> <p>・さつまいもを育てて、芋ほり体験、芋干し作りを行いました。さつまいも掘りは一般 34 人・芋干しは 17 人の参加がありました。芋ほり体験に合わせて 10 月 21 日、三田支所倉庫をお借りして、第 2 回収穫祭を開催しました。約 40 人の参加者と無料配布のふかし芋・芋干し・キノコ汁・おにぎり・リンゴ・漬物を食べ、参加した子供たちのクイズに頭をひねりながら楽しい時間を過ごしました。昨年度購入した乾燥機を利用した芋干し作りは大好評で、出来たてをその場で試食しながらティータイムしました。乾燥野菜（特にトマト）は 8 月末の暴風雨でハウスやトマトの枝が被害にあい、残念ながら収穫できませんでした。農協の統廃合もありますが、第 3 回の収穫祭開催にむけて本年もさつまいも栽培、乾燥機での芋干し作りを継続していきます。</p> <p>・地元大豆で豆腐づくり体験は平成 31 年 1 月末から行っています。堀金加工センターを利用して、大豆と青豆の 2 種類の豆腐づくりを行いました。出来たての豆乳・おぼろ豆腐試食、おから団子づくり等も行いました。</p>		

トマトケチャップ作り



芋ほり体験・
芋干し作り




三田体験農場収穫祭



豆腐作り



事業名 安曇野ドリンクフェスタ

団体名	安曇野ドリンクフェスタ実行委員会		
代表者名	宮澤 豊作	連絡先	72-2223
活動拠点所在地	安曇野市豊科 4492-33	構成人数	約 30 人
事業実施総額	406,492 円	補助金額	200,000 円
主な補助金使途	テント、テーブル等備品レンタル代・印刷代		
事業実施日・期間	平成 30 年 5 月 26 日		
事業概要・成果 ・今後の展開	<p>日本一といわれる雄大な北アルプスを主とする水が、長い年月を経て地下に浸透し、地下水・湧水となってこの地域に結びついています。この地域資源をこれからの観光・産業等あらゆる分野に有効活用すべきと考えます。</p> <p>安曇野の地域資源である“水”を原料として商品化された地元の日本酒・ビール・ワイン・焼酎・ソフトドリンク等を市民や観光客に味わい飲んで楽しんでもらいたいです。</p> <p>天候にも恵まれ、今年も出展ブースも3店（食品）増え、来場者は毎年 20~30%増しています。バラ祭り、近代美術館との相乗効果も相当あり、安曇野は一つという一体感と地域貢献の為、更にバージョンアップして、継続により安曇野のイベントの一つに成長したいと思えます。</p>		
MG プレス紙面 (5月19日付け)			

多くの人でにぎわいました。



キッチンカーが並びました。



様々なアトラクションも開催しました。



市民タイムス紙面
(6月2日付け)

安曇野の水や酒を楽しむフリエスタ

安曇野の水を原料に 来場者にきわまった。あちこちで乾杯し、試飲できるイェンクを飲む。安曇野の水を使ったかき氷は今年も人気で、500人分を用意して振る舞った。地元の日本酒やワイン、地ビールなど。今年、日本酒の出産に向けて、大雪の降った地元の清水和

試飲し、飲み比べた。食店などが秀を、毎年開催している。 (森井文人)

安曇野の水を原料に 来場者にきわまった。あちこちで乾杯し、試飲できるイェンクを飲む。安曇野の水を使ったかき氷は今年も人気で、500人分を用意して振る舞った。地元の日本酒やワイン、地ビールなど。今年、日本酒の出産に向けて、大雪の降った地元の清水和

試飲し、飲み比べた。食店などが秀を、毎年開催している。 (森井文人)

地ビールを味わう来場者

【安曇野市 市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係】

住所：〒399-8281 安曇野市豊科6000番地 （2階4番窓口）

電話：0263-71-2494（直通）

FAX：0263-72-3176

E-mail：chiikizukuri@city.azumino.nagano.jp

【市民活動サポートセンター（くるりん広場）】

住所 〒399-8303 安曇野市穂高6658番地

電話/FAX 0263-82-1922

E-mail azumino-skc@bz03.plala.or.jp

URL <http://azumino-skc.net/>

開館 午前9時～午後5時

休館日 毎週日曜日

年末年始（12月29日～1月3日）

※市民活動サポートセンターは、平成31年4月1日に市役所本庁舎
地域づくり課窓口に移転します。